

## 第3回音楽科研修会

1・3・4部会小学校 会場：芳川北小学校

5年生「いろいろな音を感じ取ろう ～思いや意図を音色とリズムにのせて～」

### 【授業参観】

リズムアンサンブル作りにつなげるため、音楽の仕組みや様々なリズムを理解できるように、本題材を通して、常時活動としてリズム打ちを行いました。指導者が事前に jamboard を活用して作成した様々なリズムパターンを、順次提示していきました。児童の実態に応じて、強弱や反復、呼びかけと答えなど、音楽の仕組みも徐々に変化するように作成されており、児童はテレビ画面を集中して見ながら、適切なリズムを打つことができました。



「音楽の仕組みを生かして、グループの思いや意図に合った作品を完成させよう。」のめあてを確認し、グループ毎にタブレットを1台用いてリズムアンサンブル作りに取り組み始めました。

事前に担当する楽器は決めてあり、本時の活動のメインは、「繰り返し」「呼びかけと答え」「音の重なり」を楽譜に取り入れることでした。自分たちのリズムに集中できるよう、グループ活動は、複数の普通教室を利用して行われました。子供たちは、自分たちの作成したリズム譜を見ながら、メトロノームに合わせてそれぞれのリズムを演奏し、「縦と横の関係」や「問いと答え」を確認していました。児童同士でアドバイスし合ったり繰り返し練習に取り組んだりするなど、積極的に活動に取り組む姿が多く見られました。また、先生の助言によって、よりよい音楽をつくろうという意欲がより高まっていました。

### 【研究協議】

授業後の研究協議では、常時活動として繰り返し指導してきたことで、複雑なリズムや音楽の仕組みが身に付いていたことについて、多くの意見が挙がりました。一方で、曲（作ったリズムアンサンブル）全体を通して音楽の仕組みを考えることは難しかったとの感想も出ました。自分の出番がどこに来ると、曲がよりよくなるかを考えたり、「呼びかけと答え」の視点を持ったりすると、よりよいリズムアンサンブルを作ることにつながるのではないかと、との意見も挙がりました。



授業者の安藤先生は、ICT機器の活用にも長けており、子どもたちは授業用タブレットを活用して、リズム譜を作ったり、話合いに用いたりする姿が多く見られました。紙媒体に比べ、楽器やリズムの変更が容易にできたり、メトロノーム機能を用いて、全員で速度を揃えて演奏したりすることもでき、「音の重なり」「問いと答え」等が視覚的にも理解しやすくなっていました。ICT機器の効果的な使用についても学ぶことができ、実りの多い研修となりました。



## 2・5部会小学校 会場：入野小学校

1年生「どれみと なかよくなるう」

### 【授業参観】

本題材では、児童が初めて鍵盤ハーモニカと出会い、いろいろな音色や曲のよさや面白さを感じ取ることをねらいとして設定されました。本時の学習を通して「鍵盤ハーモニカの音色と演奏の仕方との関わりに気づき、鍵盤ハーモニカを演奏することができる」姿を目指しました。

そのために、教師はただ音を出させるのではなく、「児童の表現した音色」と「音楽を形づくっている要素」の関わりを意識し、「どんな音がしたか。」「息をどうやって入れたか。」などの質問を繰り返し投げ掛けていました。児童は、「こんな音を吹いてみたい」という思いをもちながら、高い音、長い音、強い音などを、熱心に演奏していました。



### 【研究協議】

協議内容は多岐に渡りましたが、2つを紹介します。

1つ目は、音楽的要素を聴き取ったり、感じ取ったりしたときに、それを表現する素地を積み重ねることの大切さです。本学級は、年度初めから歌唱を通して「聴き取ったこと」の掲示を「音楽の木」として積み重ねていて、聴き取った音楽を伝える素地ができていました。低学年の段階から活動が続けることの有効性を感じました。

2つ目は、子供たちがより主体的に音楽と関わるための題材構想の工夫です。感動ある教材との出会わせ方、多くの活動時間を確保するための活動の精選など、自身の授業を振り返る多くの気づきがありました。



## 中学校会場：浜松市立与進中学校

### 【授業参観】

今回の研修会では、「クラシックギターの音色をいかしてアンサンブルを楽しもう」を題材に授業研究を行いました。

3～4人でグループを組み、『夏の思い出』に挑戦しました。演奏に使用する楽器は、クラシックギターかアルトリコーダーです。各楽器の音色の特性やパートの役割を考えて、生徒自ら楽器を選択しました。「メロディはハッキリ聞こえた方がいいからリコーダーがいいのではないかな」、「全員ギターにした方がまとまりが出るのではないかな」など、活発に意見交換をしながら進めていました。ギターが苦手で苦戦している生徒に班の仲間が丁寧にアド



バイスをする姿もあり、とても温かい雰囲気の中で活動できていました。また、授業者の田中先生が、奏法について助言をすると、生徒は複数の奏法を試して曲想に合う弾き方を見つけるなど、前向きな姿も多く見られました。

#### 【研究協議】

授業後の全体会、グループワークでは、授業の本質に迫る質の高い話し合いが行われました。まずは、生徒同士が自然と関わり合い、高め合える雰囲気づくりができていて、全員にギターと足台があり、一人一人が楽器の音色に集中して練習できる環境があることなど、授業の土台になる部分の大切さを感じました。そして、生徒に授業の見通しを持たせ、思考を深めるためのワークシートや生徒への声の掛け方など、あらゆる場面で先生の工夫が見られました。一方、指導の中でどうしても技能



の習得に重きを置きがちになってしまうことがあります。技能は生徒にとって思いや意図を表すために必要なものであり、生徒が「こう歌いたい」「こう演奏したい」と創意工夫する中で技能が高まっていくように指導することが大切です。話し合いの中では、こうした授業展開の工夫についても話題となり、音楽科として目指す授業像について再認識する機会となりました。